

令和6年度の分娩受け入れ休止について

熊本県下の産科医師は極めて不足しており、特に県南部では深刻で、当院も例外ではありません。当院は、50年前の産婦人科創設以来、熊本県地域周産期中核病院として八代地域はもとより、人吉・球磨地域や宇城地域のハイリスク分娩や周産期医療に対応してまいりました。この対応には、24時間365日応需できる産科医の体制維持が必要です。これまで、非常勤医師の他、熊本大学産婦人科医局の、人員に余裕がない中での高配ご尽力により若手医師派遣や分娩待機医師の応援もいただき、運営してまいりました。当院としても、独自に産科医確保の努力をしてまいりましたが成果を得られないまま、熊本大学医局の産科医師払底を主な要因として、現時点で、次年度の当院分娩支援の見込みが立っておりません。まことに残念ですが、安全で持続的な分娩応需体制の確保が不十分となる事を踏まえ、分娩の取り扱いを、今年度まででいったん休止させていただきたいと存じます。

つきましては、すでに該当の妊婦様には個別にご説明ご相談をしておりますが、今後來院される妊婦さんに対しまして以下のような対応といたします。

- ① 分娩予定日が、令和6年2月29日までの妊婦さんに関しては、現状通り大学医局のご支援もいただき、当院での妊娠管理・分娩予約を受け入れます。（予定日超過の可能性を考慮して予定日の期限を2月までとします）なお、今年度一杯、来年3月までの分娩は、従来通り行います。
- ② 分娩予定日が、上記以降、令和6年3月1日以降の妊婦さんに関しては、当院での分娩ができない可能性が高いことをご説明し、それまでの妊婦健診だけでもよければ当院産科外来で行うこととし、妊娠の状態や妊婦さんご自身のご希望も勘案してご相談のうえ、分娩受け入れ施設を決定し、当院から責任をもってその医療機関へのご紹介をさせていただきます。
- ③ なお、次年度以降の分娩引き受け原則休止後も、たとえば開業医さんなどが、当院での緊急帝王切開や分娩などを、いわゆるオープンシステムとして、開業医さんご自身が来院の上実施したいというご希望がありましたら、継続して存在します産科病棟で入院を受け入れ、助産師も対応いたしますので、ご利用いただければと思っております。その際の産後ケアなどは病院で責任をもって対応いたします。
- ④ 当院での分娩休止後における県南地域での、早期胎盤剥離や出血など、いわゆる産科救急事案につきましては、熊本大学産婦人科医局のご指導ご調整のもと、原則として熊本市内の医療機関に救急搬送される体制となっております。
- ⑤ 初期研修における産科研修に関しましては、他院での研修体制など早急に整備できる見通しですので、当院での研修を希望されるかたはどうかご安心ください。

なお、次年度以降も、当院における産科入院設備などは現状どおり維持され、助産師も引き続き在職しますので、助産師が中心になってこれまで行ってきました、八代市からの産後ケア事業や、産後体調不良による一時入院（レスパイト入院）、乳房ケアなどは引き続きお引き受けいたしますのでご利用ください。また、来年度以降もお産を除く婦人科診療は継続いたしますので、ご来院・ご紹介をお願いいたします

次年度以降も、なんとか分娩を継続できる方策を今後もなお追求する所存であり、もし再開に至る場合には速やかにその旨ご報告申しあげます。皆様にご不便、ご不安をおかけいたしまして大変申し訳ございませんが、状況ご賢察の上、ご理解くださいますようお願い申しあげます。

なお、この件に関しまして御不明な点などございましたら、病院総務課までお尋ねください。また、ご自身の診療に関することは産婦人科外来にご相談ください。

令和5年7月28日

熊本労災病院 院長 猪股裕紀洋

産婦人科部長・副院長 福松之敦